

業務の実績の説明

補助対象事業の名称（補助事業者名）	
ICT 技術への心理的障壁を解消するアプリケーション等を用いたコミュニケーションサービスの研究開発	
補助対象事業の概要 【研究開発の全般について】	
① 補助対象事業の概要	放送・通信事業者として、デジタル・デバイドとされる高齢者などでも、手軽に ICT の恩恵が得られるよう、令和元年度の実証試験とアンケートの分析結果を参考に、実際に高齢者が必要性を感じている「ヘルスケア（健康管理）」等、日常生活に必要な様々なことが、ICT デバイスで管理できるようなアプリケーション等を活用した。さらに、自発的な継続利用意欲の向上のため、ICT デバイスを誰もが気軽に利用できる環境整備として、スマホ相談会等のサポート体制を地域に普及させ、高齢者でも簡単に利用できるアプリケーション等を用いたコミュニケーションサービスの展開を図った。
② 補助対象事業の目標	高齢者でも活用できるアプリを用いたコミュニケーションサービスの展開並びに継続的利用の定着
③ 研究開発期間	令和元年度～令和 3 年度
④ 補助金（前年度までの累計）	16,278 千円
【令和 2 年度実施部分について】	
⑤ 令和 2 年度補助金	10,413 千円
⑥ 研究開発の実施内容	令和 2 年度に新たに追加した「ヘルスケアアプリ」は、自分の顔をスマートフォン等のカメラで撮影するだけでバイタルチェックができるため、高齢者でも ICT デバイスを使って簡単に健康管理が可能となった。また、測定データをコミュニケーションアプリ（令和元年度に開発した「三郷町アプリ」）と連携することで町からの情報をはじめ様々なスマホ活用の習慣化につなげ、さらに高齢者の自発的な継続利用が定着できるように心理的・技術的の両面からのサポート体制を充実させた。令和元年度に展開していたスマホ相談会（遠隔サポート含む）を今年度も定期的で開催し内容の充実（スキルアップ図る）と感染症対策なども含めマンツーマンで行うケースが多かった。また三郷町エリアの高齢者 1000 名程度を対象に ICT に対する意識調査アンケートを実施し潜在的な傾向の分析などを実施した。当初の研究計画などに予定していた乗り合いタクシーの予約やロボットを活

	<p>用した薬の服用管理などは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を鑑み実施を控えた。またスマホ相談会においては、参加者が高齢者であることを考慮し会場内の3蜜を避け参加者含めた会場内のスタッフ全員の体温管理並びに消毒処理などを徹底し実施した。</p>
<p>【令和2年度実施部分における研究開発課題の成果や評価結果について】</p>	
<p>⑦研究開発の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度研究の結果を鑑み、今年度の主たるテーマとして掲げていたのが高齢者が普段、最も関心を示している事項を研究に取り組むという事でありバイタルチェックが簡単にスマホで可能になる仕組みを取り入れたアプリを作成し使用することでスマホ機器などの利用習慣化を狙った。結果としては、85%程度の参加者が利用を行い、内継続利用がみられたのは、60%という高い利用率が計測された。これらのデータは、健康に対する関心度がその他の世代と比較しても潜在的に高い状況に重ね、新型コロナウイルス感染症の脅威が迫った状態でかつ提供したアプリにおいてSpO2（経皮的動脈血酸素飽和度）の測定ができたことも大きかったと考える。 また、これらの継続利用が見られた参加者の中では、熱心に面談できる相談会の参加のみならずZoomなどを活用したリモート相談会の利用も多く見られた。また最終的には、Zoomなどのミーティングツールを活用しホストとして友人知人とのリモート交流を実施できる参加者も散見された。既にこの状況まで到達できている参加者は、デジタルデバイドが解消できているといっても良い状況であった。 ・三郷町エリアにおけるICTデバイス利用における意向調査（アンケート）の実施については、1015名程度の対象に対して郵送にて募集した。回収率は、40%弱と比較的高い状況であった。潜在的にデジタルガジェットを使いこなしたいという意向がくみ取れたと思われる。 ・次年度研究に関しては、当初の研究計画の3年目にもあたる事でもあり。より広くまたよりICTに対する関心が低い（デバイドが深化している）高齢者対象に実施することを予定している。これらの対象には、2年間の研究成果に基づき関心をさらに広げていくためのスキーム、バイタル+αとして災害情報や生活支援情報（お買い物支援含む）を手軽に入手できまた被災時の告知システムとして活用できるIPセットトップBOXなどの活用を考えており、スマホ以上に手軽に利活用できることにより

	地域全体の利用につなげられるように調査研究し当該自治体（三郷町）と整備できるようにつなげていく。		
⑧研究成果の応用状況、利用状況	令和2年度現在では、未だ研究開発段階であり実施未。		
⑨論文数	0件	⑩被引用論文数	0件
⑪特許申請件数（国内）	0件	⑫特許取得件数（国内）	0件
⑬特許申請件数（海外）	0件	⑭特許取得件数（海外）	0件
⑮受賞数（国内）	0件	⑯受賞数（海外）	0件